

研究紀要の発刊に当たって

上川教育研修センター所長 伊 東 義 晃

新型コロナウイルスの感染状況がピーク時と比べると落ち着く中、様々なことが元の生活に戻り始めています。各学校におかれても、行事が制限のない形で行われるなど、子どもたちの一層生き生きと活動する姿が見られるようになりました。今後も、子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごしていけるよう心から願うばかりです。

令和4年12月の中央教育審議会答申におきまして、「新たな教師の学びの姿」が示され、教師には「令和の日本型学校教育」における「子どもたちの学び」と同様に、個別最適な学び、協働的な学びを通じた「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことが強く求められております。こうした中、当センターでは、研究主題を「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」とした第19次研究2年次の研究を推進してまいりました。

定例研究室会議や長期休業中の集中研究室会議等を通して理論研究を重ねるとともに、研究発表会（令和5年12月12日）を開催し、公開授業及び研究協議におきまして本年度の研究成果と課題の明確化を図りました。また、國學院大学の田村 学教授による「令和の日本型学校教育の構築～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」と題しました、当センター開設50周年記念講演会（令和6年1月11日）を開催し、当センターの研究について、今求められている授業改善の視点から多くのアドバイスもいただきました。改めてですが、研究推進の方向性について再確認することができました。

このたび、理論研究とともに、研究協力校（美瑛町立美瑛東小学校、旭川市立北星中学校）及び当センター研究員による授業実践の成果を『研究紀要(第49集)』として発刊させていただく運びとなりました。

この研究紀要には、上川の教職員の皆様のために「少しでも役に立ちたい」という当センター研究員の熱き思いが詰まっております。ぜひ御覧いただき、一文字一文字に込められた思いに心を寄せていただきますとともに、日常の実践に御活用いただければ幸いに存じます。

最後に、研究協力校をはじめ、御指導・御助言を賜りました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げ、発刊に当たっての御挨拶といたします。

（令和6年3月31日）